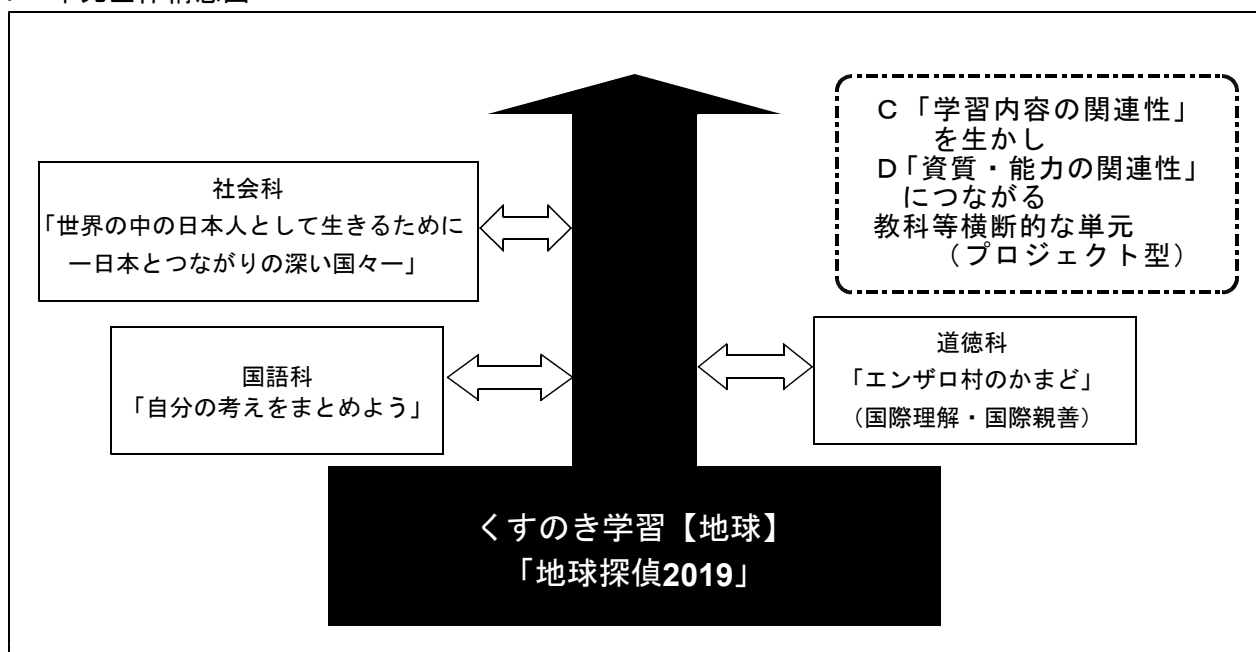


第6学年花組 くすのき学習【地球】（＋国語科・社会科・道徳科）

「地球探偵2019」

指導者 河口 麻衣子

1 単元全体構想図



2 単元構想について

本単元は、C「学習内容の関連性」を生かし、D「資質・能力の関連性」につなげる、プロジェクト型の教科等横断的な単元である。

本学級の子どもたちは、小学校卒業と中学校進学を控え、少しずつ自分の進路について考えるようになってきている。将来の夢を抱いたり、自分を支えてくれる家族や友達に感謝の気持ちを持ったりしながら、新しい生活に思いを馳せている。しかし、将来の自分の姿は漠然としており、どのような人になりたいか、社会の一員としてどう生きていくのか、と考えることまではできていない。また、自分を取り巻く社会に目を向けたり、自分は様々なものやこと、人とつながっているということを意識したりすることもあまりない。子どもたちがこれから広い社会でよりよく生きていくためには、グローバルな視点や物事を捉える広い視野、地球に生きる一員という自覚を持つことが必要である。そこで、自分の生き方を考えようとしたり、自分がつながっている世界のものやこと、人を知ろうとしたりする主体的な姿勢を、探究的な学習に取り組むことを通して育みたいと考えた。

本単元では、子どもが「地球に生きる一員」としての自覚を持ち、これからの自分の生き方を考えようとする姿勢を養うことを目指す。子どもと学習材や他者をつなぐために、探究的な学習を効果的に取り入れる。「地球探偵」として、世界の様々な問題やそれらを解消するために活動する人々について調べていく。「人の生き方」を取り上げることで、自分自身の生き方を考えることにつなげていきたい。くすのき学習を中心に探究的な学習を進め、そこに国語科や社会科、道徳科での学習を関連させる。国語科とは、自分と他者のものの見方や考え方を比較しながら自分の考えをまとめる学習を通して、思考を整理する力や考えを自分の言葉で伝える力などの資質・能力の関連を図る。社会科とは、日本の世界での役割を考える学習と関連させることで、課題解決に必要な情報を収集することができ、国際社会の一員としての自分の役割を考えることもできる。道徳科では、国際理解や国際親善という価値に迫る教材を扱うことで、「地球に生きる一員」としての自覚が芽生えるだろう。探究的な学習のプロセスの中では、教科等の学習が生かされたり、探究的な学習の成果が教科等の学習で生かされたりする場面を多く設定することができると考える。単元の終末には、探究的な学習において

自分の生き方を重ねながら考えたことを「未来の自分」として発表する場を設定し、学びが自分の生き方につながることを実感させたい。

これらの場面で、子どもが学習材や他者、自分自身とつながり、探究の面白さを感じたり、学びが生かされる喜びや希望を味わったりすることができ、そこに「深い学び」が表れるのではないかと考え、本単元を設定した。

3 単元のねらい

- 世界の様々な問題を知り、それらを解消するために活動する人々の努力について分かる。
- 課題の探究の方法を考えたり、自分の考えを分かりやすく伝えたりする。
- 地球に生きる一員としての自覚を持ち、自分にできることを実践したり、これからの自分の生き方について考えたりする。

4 単元の展開（全15時間）

場面	子どもの課題意識と主な学習活動	評価の規準	時間
出 合 い 追 究	世界の様々な問題について調べよう。 ○ 人権問題や難民問題などの世界の様々な問題や働く人々について知り、そこから課題を設定する。	● 世界の様々な問題や働く人々について知り、興味や関心を持って課題を設定している。	6
	自分にできることを考えて実践しよう。 ○ 課題について調べたり、今の自分にできることを考えて実践したりする。	● 自分なりの方法で主体的・協働的に探究している。 ● 自分にできることを考え、実践している。 ● 世界のために働く人々の努力について分かり、自分の生き方を考えようとしている。	7 本 時 その 2
振 り 返 り	自分の生き方について考えよう。 ○ 地球に生きる一員としての自分の生き方について考え、「未来の自分」を発表する。	● 地球に生きる一員であることを自覚し、自分の生き方を考えている。	2

5 単元における指導の工夫

場面	三つの場面ごとの「つなぐ」指導の工夫（学習材・他者・自分自身）
出 合 い 追 究	・ 自分事として捉えやすいように「人の生き方」との「出会い」を扱うことで、自ら探究したいと思える課題意識を持つことができるようにする。（学・他・自） ・ 「学習を通して自分ができるようになること、得られるもの」について考えることで、自分にとっての探究的な学習の意義を意識できるようにする。（自）
	・ 社会科や道徳科の学習で世界が抱える問題や国際貢献に尽くす人々を取り上げることで、課題意識のつながりや探究に向かう意欲の高まりを図る。（学・自） ・ 海外で働く日本人や青年海外協力隊員として活動した人等との「出会い」を意図的に設け、これからの自分の生き方に目を向けながら探究的な学習に取り組むことができるようにする。（学・他・自） ・ 自己評価カードを活用した振り返りの場を繰り返し設けることで、探究の方向を確認したり、修正したりして、よりよく課題を解決することができるようにする。（自） ・ 共同学習者やゲストティーチャー等による相互評価や他者評価を取り入れることで、他者に共感したり協働的な学びを実感したりすることができるようにする。（他） ・ 情報を整理・分析したり、自分の考えをまとめたりする場面や、自分の思いや考えを伝え合ってよりよいものを生み出す場面で、適切な思考ツールを活用する。（他）

振り返り	・ 「未来の自分」を保護者に向けて発表することで、成長したことを評価してもらったり、学びが自分の生き方につながっていることを実感したりできるようにする。(他・自) ・ 探究的な学習を通して育った力を把握し、自分自身の成長を実感することができるように、自己評価カードに身に付いた力について記述する項目を設ける。(自) ・ 学びの成果を具体的に感じられるように、ゲストティーチャーや家庭による他者評価を子どもに返す。(他・自)
------	---

6 評価の具体的な方法

(1) 「出会い」「追究」「振り返り」の学習過程における評価

	「学習材」「他者」「自分自身」とつながった姿	評価の具体的な手立て
出会い	○ 「知りたい」「調べたい」という意欲を持ち、自分にとって価値のある課題を設定することができる。 ○ 自分にとっての探究的な学習の意義を意識することができる。	○ 探究的な学習の進め方をイメージし、主体的に取り組もうとする様態を見取る。 ○ 「学習を通して自分ができるようになること、得られるもの」を、教師からの働き掛けと子どもとの話し合いによって決定する。
追究	○ 課題の解決に向かって、明確なめあてを持って自分なりの方法で探究的な学習に取り組んでいる。 ○ 協働することや解決できることに楽しさを感じながら、課題を追究したり、できることを考えて実践したりしている。 ○ ゲストティーチャーや共同学習者とのかかわりの中で、自分の思いや考えをうまく伝え、手応えをつかんでいる。	○ 自己評価カードを活用し、活動を振り返る場を繰り返し設ける。 ○ 様態を観察すると共に、子どもの姿や作品、板書などを写真として残し、事後の評価の材料とする。それらを蓄積し、変容を見取っていく。 ○ 共同学習者との相互評価や、ゲストティーチャー等からの他者評価を取り入れて多面的な視点で見取る。
振り返り	○ 分かったことやできるようになったことを実感し、学びがこれからの自分や周りの人々の役に立っていると感じている。 ○ 身に付けた資質・能力を、各教科等の学習と相互に生かしている。 ○ 自分が地球に生きる一員だという自覚を持ち、これからの生き方を考えようとしている。 ○ 探究の面白さを知り、学習や生活の中で探究心を持って活動している。	○ 身に付いた力について記述する項目を設けた自己評価カードを活用する。 ○ 国語科や社会科の学習において、身に付けた資質・能力が発揮されるであろう場面を想定し、様態を見取る。 ○ これからの自分の生き方について表した「未来の自分」(作文やプレゼンテーション等の具体物)から見取る。 ○ 時間軸・空間軸において様態を長期的、多面的に捉えるため、評価材料を蓄積したり、教師間の情報交換を密に行ったりする。

(2) 子どもの自己評価

探究的な学習の過程において、自己評価カードを記入する場を毎時間設ける。単位時間の始めに、本時に自分がすべきことや目指すことを記入し明確にした上で取り組み、終末に振り返りを行う。

自己評価カード

【今日のめあて】	(本時の自分のめあてを具体的に記述する。)
【振り返り】	(めあてに対する達成度や次時の課題について記述する。)

毎時間記入することで、課題意識や意欲が継続し、よりよい課題解決へつながる。教師は子どもの探究に向かう姿勢や成長を把握する。

7 本時の授業（8／15）

- (1) 日 時 令和2年1月31日（金）10:30～11:15
 (2) 場 所 6年花組教室
 (3) ねらい これまでの学習の過程で分かったことや考えたことを伝え合い、自分の生き方に目を向けながら探究的な学習に主体的に取り組む。
 (4) 準備物 資料、タブレットPC、自己評価カード
 (5) 展 開

学習活動	予想される子どもの意識の流れ	指導(○)と評価(●)
1 本時の各自のめあてを確認する。	今日の活動を確認しよう。 - 世界で活躍する〇〇さんのすごさをみんなに伝えたい。 - みんなに協力してほしいことがあるから、話を聞いてもらいたい。 - 他の人たちはどのように調査を進めているのか知って、参考にしよう。	○ 自己評価カードに本時のめあてを記入して活動の内容を確認できるようにする。 ○ 単元の終末で「未来の自分」を発表することを確認し、自分とのつながりを意識しながら活動できるようにする。
2 分かったことや考えたことを伝え合う。	これまでに分かったことや考えたことを伝えよう。 【働く人】【自分たちにできること】【国際連合】【世界の問題】【支援】 - 緒方貞子さんのことを詳しく調べたので知ってほしい。 - カンボジアで現地の人々のために働いている愛媛県の人がいるんだよ。 - 世界のために働く日本人が多くいるんだな。 - 自分は将来どのような人になるだろうか。 - 普通に学校に通えることは当たり前ではないことが分かったよ。感謝したいね。 - 困っている子どもたちのために、募金をしたいと考えています。 - 募金をすることはいいと思うよ。自分にできる範囲ですればいいんじゃない。 - 今の自分たちには大きなことはできないよ。	○ 更なる探究の必要感が生まれる伝え合いの場となるように、多様な意見を取り上げてコーディネートする。 ○ 考えが広がったり深まったりすることを実感させるために、思考ツールを活用して考えを可視化する。
3 課題に沿って探究する。	課題に沿って活動しよう。 - 自分も働く人についてもっと調べてみよう。 - 友達の話聞いて考えが少し変わってきたな。 - このことを△△くんが調べていたな。情報交換をしてみよう。	○ 自分なりの方法で探究している子どもを称揚することで、意欲を高めたり、探究の楽しさを感じさせたりする。 ○ 手応えを実感したり、今後の見通しを持ったりすることができるよう、めあての達成度や次時の課題を記述させる。
4 本時の活動を振り返る。	今日の活動を振り返ろう。 - 調べたことをみんなに教えることができた。 〇〇さんのことを知って、自分の将来のこともちょっと考えるようになった。 - 自分にもできることがあるのかも知れないな。 - みんなに協力してもらうにはまだ説得力が足りないな。もっと情報を集めよう。	● 分かったことや考えたことを伝え合い、自分の生き方に目を向けながら主体的に探究的な学習に取り組むことができたか。 [様態、自己評価カード]